

No.	質疑・要望	回 答
1	検針票の有効活用について、令和4年度の計画目標の表現方法を精査した方がよいのでは。	精査します。（令和4年度も有効活用に取り組んでいるため、確定版では、記載内容を変更しています。）
2	応急給水訓練の回数が令和2年度に比べて半分になっている理由は。	危機管理体制を整えるため、適宜、開催しています。今後も、適切な危機管理体制を保てる適切な回数を実施していきます。 （算定方法を修正したため、確定版では回数を変更しています。）
3	農薬等に対する水質検査の頻度はどのくらいか。	農薬検出の可能性のある農繁期に年2回実施しています。
4	年2回の水質検査で大丈夫か。	事実上、農薬は検出されていません。
5	もう少し頻繁な水質検査をしても良いと思う。	—
6	鉛製給水管の残存率を掲載してはどうか。	確定版に成果として記載します。
7	鉛製給水管の解消に向けた啓発チラシには、管を変える必要があるのか判断に迷うチラシもあるが、枚方市はどうか。	枚方市の啓発チラシでも「鉛の水質基準は安全です」と記載しています。
8	枚方市には、鉛製給水管の取換工事に助成金はあるのか。	局が配水管更新事業に合わせて行うか、個人で行うものと考え、助成金は考えていません。
9	水管橋の点検調査で漏水1件とありますが、現実として大きな水道管が破損して、道路が陥没するような大きな漏水事故はないということか。	水道管の老朽化を原因とする漏水事故については、直近3ヵ年で令和3年度は給水管544件と配水管54件、令和2年度は給水管597件と配水管70件、令和元年度は給水管656件と配水管51件あり、修繕工事を実施しています。
10	漏水の早期発見のためA Iや衛星などを用いている自治体もあるが、枚方市はどうか。	人の手による漏水調査と修繕が効率的という認識です。
11	最新技術の導入を検討しないのか。	最新技術に注目しながら、適切で効果的な更新を進めます。
12	下水道マンホール蓋の有料広告について、広報ひらかた等に掲載はしたのか。	ホームページや広報ひらかたで募集し、5箇所を実施しています。令和3年度からは、8箇所の募集を行っています。
13	「10年確率に対応した雨水整備」とあるが、雨量を記載すればどうか。	1時間54.4mmを記載します。
14	下水道のICT化に対する枚方市の見解は。	令和4年度に下水道台帳のホームページ化を予定しており、現場での台帳確認をスマホ等でスムーズに実施できると考えています。
15	将来的には、下水道のポンプ操作に使うというような研究レベルの話も課題に入ってくるのでしょうか。リアルタイムコントロールを超えた形のICT化についての見解は。	ICT化によりどこでも見れて、迅速なポンプ場運転により初期対応をスムーズにできるような形を検討しています。
16	工場系地域の污水整備について、事業実施に向け事業効果を見極めるというが、「見極める取り組み」の具体は。	過年度に基本設計を実施していますが、企業団地内の道路に地下埋設物が輻輳しており、移設できない関電ケーブル、N T Tケーブルがあります。また、既設の水路が深いため推進工法が必要となりますが、その作業スペースが足りないなど色々な課題もありますので、現地を見ながら、関係機関と協議を進めながら慎重に取り組んでいる状況です。
17	工場系地域での污水整備は、非常にコストがかかる工法でしかできないということか。	特殊な工法になってきますので費用がかかります。そういった部分も含めて費用対効果が一番重要であり、慎重に取り組む必要があると考えます。

No.	質疑・要望	回 答
18	現在、国土交通省で「ＰＰＰ／ＰＦＩ手法選択のためのガイドライン」の策定に向け、新たに検討会が立ち上がる。 これまでもガイドラインがあったが、選択できるようなものではなかった。ようやく様々な公民連携手法の紹介と、どのような場合に、どのような選択ができるのかという手法選択のガイドラインが整備される。今年度中に策定予定であるので、ぜひ参考にとと思う。	—
19	来年度以降「新下水道ビジョン加速戦略」の見直しにより新しい動きがあるため、積極的にフォローアップしていただきたい。	—
20	過年度の評価と比較できるようにできないか。	当該年度とその前年度の評価を記載します。